

## 木材市場の沿革

前史	「木場」の始まり	江戸時代・寛永時代(1624年～44年)から、 元禄時代(1688～1704年)にかけて完成	
	伝統的な入札売買制度	入札問屋(売り手)と角屋同盟(買い手)の誕生と解散	日清・日露戦争
	入札団体が大同団結	角材問屋入札組合を組織	第一次世界大戦
大正後期	木材市場会社の誕生		関東大震災
昭和初期	統制経済への移行	木材の輸入制限	第二次世界大戦
	木材統制法の施行	木材の個人営業停止	
20年以降	木材統制法の撤廃	市売りの拡大(大阪がスタート、関東は横浜で) 木場で市売りを開始	敗戦、朝鮮戦争
	相次いで木材市場が開設	10市場(東京7, 神奈川3 昭和26年) 全日本木材市場連盟の発足(昭和29年)	
	市売り取扱高が急増 メートル法の施行	各種の産地材展示会など(イベント型の販売) メートル法の定着に向けた取り組みが開始(36年)	
40年以降	経営多角化の流れ	外材の増加 新建材等の取扱の増加	木造住宅112万戸(昭和48年)
	木材価格の高騰	木材センターの誕生	
昭和50年	新木場へ移転 経営環境の変化と土地等の活用	東京都が新木場移転計画を作成、新木場で営業開始	55協同組合と462企業の集団移転
平成 ～現在	バブル崩壊と木材取扱高の減少		木材会館(新木場)の完成
	住宅・建築物の木造化・木質化の推進	公共建築物等木材利用促進法の施行など	